

四万十つるの里づくりの会 平成20年度取り組みダイジェスト

平成20年

6月

■ツルのえさ場づくり(草刈り・整地・モミ撒きなど) [～8月]

背の高い雑草に覆われていた江ノ村地区の休耕田で、人力プラス大型重機で約5日かけて草を刈りました。その後は整地して水を張り、7月にはえさ場予定地(約1.5ha)に約80kgのモミと肥料を撒きました。一連の作業は、会員や地元の農業者など多くの方々の協力のもと行われました。



草刈り



整地(耕うん)



水張り



モミ撒き

■平成20年度総会開催

日 時 ■ 平成20年6月24日(火) 14:00～15:30

場 所 ■ 中村商工会館

参加者 ■ 32名

《実施内容》総会では、「四万十川自然再生事業(ツルの里づくり)」(国土交通省)や「セブン-イレブンみどりの基金」の説明等があり、今後は江ノ村地区の農業者組織などと連携し、取り組んでいくことになりました。役員改選も行われました。



平成20年度総会

7月

■「第1回ツルの自然体験学習会」開催 ※協力:国土交通省

日 時 ■ 平成20年7月17日(木) 10:00～11:00

場 所 ■ 中筋川流域中山地区

参加者 ■ 地元の小中学生42名(その他会員等約30名)

《実施内容》子どもたちに「四万十川自然再生事業(ツルの里づくり)」の実施によって、中山地区ではメダカや水生昆虫などの生き物が多数確認され、ツルの越冬にふさわしい湿地環境になりつつあることを伝えました。その後、全員でえさ場にモミを撒きました。なお、江ノ村地区については、雨天のため急遽中止し、後日、会員によるモミ撒きを行いました。



断続的に降る雨にも負けず、元気にモミ撒き

8月

■会報第4号制作 特集:平成20年度は5つの取り組みを進めます!(事業計画紹介)

平成20年度は、会報を3回(各1,000部)作成し、地元住民や小中学校などに配布しました。行事等でも配り、当会の活動を紹介する資料として活用しました。



会報仕様:A3二つ折り・両面フルカラー▶

10月

■ツルの行動・環境体系調査 [～平成21年3月]

《調査結果より》平成20年度は、10月27日からツルが訪れ、11月には今季最大の72羽を確認しました。また、8年ぶりに幼鳥を含む9羽のナベヅルが越冬しました。全期間では延べ1,000羽を超える飛来があり、えさ場・ねぐらとしてよく利用される場所や、ツルの行動について多くのデータを得ることができました。また、2月には試験的に給餌を行いました。ツルは安心して餌が取れるとわかった場所には翌年も訪れるといわれ、次年度への期待が持てる結果となりました。

確認数ピーク時の様子▶



平成20年度は地域の方々の協力を得て、以下のような取り組みを行いました。また、「セブン-イレブンみどりの基金」や国土交通省の「四万十川自然再生事業」などの協力もいただきました。



ホームページ ※平成21年9月30日現在
アクセス数6,000を突破!

<http://www.shimanto-tsuru.com/>



11月

■ツルのねぐらづくり・周辺部草刈り・草焼き [～12月]

秋にはねぐらの整備として、ツルが降りやすい空間づくり、除草・防虫、土壌殺菌等を目的とした草焼きなどを行いました。

草焼き▶



■「第2回ツルの自然体験学習会」開催 ※協力:国土交通省

日 時 ■ 平成20年11月4日(火) 9:30～12:00

場 所 ■ 中筋川流域中山地区・江ノ村地区

参加者 ■ 地元の小中学生25名(その他会員等約30名)

《実施内容》澤田佳長氏(野生生物環境研究センター所長)が、子どもたちに最新のツルの飛来状況等について説明しました。その後、えさ場・ねぐらの整備状況やデコイ(ツルを呼び寄せるための模型)を見学してもらいました。江ノ村地区では、子どもたちが周辺の水路で捕れた水生生物をえさ場へ放流しました。



水生生物のえさ場への放流



現場で説明を聞く子どもたち

■啓発チラシ・看板制作についての記者発表(11月17日)

頻繁にツルが確認されるようになったため、ツルを見かけた場合の諸注意を啓発するチラシと看板を制作し、メディアを通じて協力を呼びかけました。



手づくりの啓発看板を設置



記者発表の様子



四万十市内の小中学校や旧中村市の全世帯へ配布したチラシ▶

平成21年

1月

■会報第5号制作 特集:気になる!!今季のツル飛来状況(調査結果速報)

■ツルの里づくり先進地視察

視察日 ■ 平成21年1月31日(土)

場 所 ■ 山口県周南市八代地区

参加者 ■ 会員9名

《実施内容》本州で唯一のナベヅル越冬地である八代地区を視察し、地域の主要産業である農業を活かしたツル保護活動について学びました。

ツル保護のための農道の通行止め▶



水を張った田で休む鳥たち(矢印がナベヅル)

3月

■「つるの里づくりを考えるワークショップ」開催

日 時 ■ 平成21年3月7日(土) 10:00～12:00

場 所 ■ 四万十市防災センター

参加者 ■ 地域住民など46名

《実施内容》鹿児島県出水市の奈良和憲氏(ツル博物館クレインパークいずみ館長)を講師に迎え、毎年1万羽を超えるツルが飛来している出水平野での取り組みを学びました。



ワークショップの様子

■会報第6号制作 特集:歴史ある先進地から学ぼう!(山口県八代地区と鹿児島県出水市の取り組み)